

令和4年度「学術変革領域研究（A）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	22A402	領域略称名	マクロ沿岸海洋学
研究領域名	マクロ沿岸海洋学：陸域から外洋におよぶ物質動態の統合的シミュレーション		
領域代表者名 (所属等)	羽角 博康 (東京大学・大気海洋研究所・教授)		

(応募領域の研究概要)

沿岸海洋環境を支配する要因の解明のために、また沿岸海洋における現代的諸問題の解決のために、ミクロな視点でミクロな領域を扱ってきた従来の各論的沿岸海洋研究を統合し、ミクロな視点を維持しつつマクロな領域に展開する新しい沿岸海洋学を形成する。日本沿岸海洋をターゲットに、栄養物質環境の成り立ちを陸域から外洋までのつながりの中で供給源や変質プロセスに遡って解明できるシミュレーションシステムを構築し、マクロ沿岸海洋学を実現する中心的手段とするとともに、沿岸海洋の将来予測や影響評価の基盤とする。これを用いて「沿岸海洋の生物生産を支える栄養物質供給において陸域と外洋のどちらが支配的か」という問題に解答する。

(審査結果の所見)

本研究領域は沿岸海洋の物質循環を支える栄養塩の起源は陸域か外洋かといった海洋学の古典的問題への挑戦であり、研究領域としてのマイルストーン(あるいは大問題の設定)が明快である。各計画研究で得る知見を「統合的シミュレーションシステム」で集約するプロジェクトの設計も堅牢である。国内外で沿岸海洋学への関心と需要が高まる中、海洋科学のみならず水産学や海洋工学など周辺分野にも波及する学術領域の大変革を期待したい。物理場が沿岸海洋科学の基底であるが、物質循環を扱う本領域において海洋生態系のエキスパートや関連する研究テーマも取り入れて、研究を推進していただきたい。また、当研究プロジェクトの横串となるべき「統合的シミュレーションシステム」については、全計画研究を集約する目標を明確化して取り組んでいただきたい。上記の点を念頭に置いた領域運営、領域代表者のリーダーシップに期待したい。